

北方学園構想の教育方針について

平成30年8月29日(水)
学校構想検討委員会

北方町の現状

□児童生徒の実態

- ・学習面…基礎的な知識や活用力は身に付いてきたが、学習内容について深く理解し、伝えたいことを筋道立てて説明したり、整理して書いたりする力については十分身に付いていない。
- ・生活面…規則を守り落ち着いた学校生活を送ることができているが、中学校では、不登校や無気力な姿が増える傾向にある。
(H29年度不登校：小学校 5人 中学校 18人)
- ・心の面…地域活動に参加し人の役に立つ人になりたいと思う子生徒が多い反面、将来の夢や目標を持っている生徒が少ない。
(人の役に立つ人間になりたい：北方町 78.2% 全国 70.7%)
(夢や目標をもっている：北方町 36.2% 全国 45.3%)
(H30年度 全国学力学習状況調査の質問紙結果より)

□教職員

- ・北方町を勤務の本拠地とする教員は極めて少なく、ほとんどの教員が3年以内に他の市町村へ転出する。
- ・新規採用者や経験6年目までの若い教員が多い。
- ・中学校が1校のため、中学校の教員が町内異動ができず、町内に留まれない。

□教育環境

- ・現在は、小学校3校（北方小、北方西小、北方南小）と中学校1校（北方中）があるが、北方西小は5つの学年で単学級になっている。
- ・北方小の校舎、北方西小の体育館などの老朽化が進む一方、北方南小と北方中の校舎は比較的新しく、空き教室も出てきている。
- ・北方南小校区の中学生に、通学距離の遠い地域がある。
- ・町全体で教育方針を統一して歩むことができる環境にある。

□保護者や地域の願い

- ・保護者からは、いじめなどの問題行動がなく安心して学び合える学校づくりや学力向上を望む声が多い。
- ・特色ある教育として、英語教育の充実を望む声が多い。
- ・地域行事への参加、あいさつ運動、見守り活動などを通して、地域で子どもたちを育てようという思いがある。
- ・平成29年度、町内の各種団体の代表、保護者代表、幼保小中高の園校長をメンバーに、コミュニティ学園協議会を発足し、園や学校の情報を共有し、各学校の運営に関わっていこうとする仕組みができている。

□町全体の教育方針

- ・町全体のコミュニティ学園の教育方針として「たくましい北方の子を育む」を定め、共通理解して歩み始めている。
- ・この教育方針を受け、小中学校においては、「夢や目標を持つこと」「安心して学び合えること」を重点に、様々な手立てを打っている。



現状からみた改善点

- ・学習内容についての理解を深め、表現力を身に付けられるようにする。
- ・児童生徒理解を深め、一人ひとりのよさが発揮でき、自信が持てるようにする。
- ・指導力のある教職員が北方町に定着できるようにする。
- ・より安心して学び合える教育環境を整える。
- ・地域や家庭と連携した学校運営をさらに進めていく。

国の教育方針

□新学習指導要領から

[基本的な考え方]

- ・子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成する。
- ・知識の理解の質を高め「主体的・対話的で深い学び」ができるようにする。
- ・道徳教育や体験活動の重視により、豊かな心や健やかな体を育成する。

[改善事項]

- ・情報を正確に理解し適切に表現するなどの、言語能力を確実に育成する。
- ・伝統や文化に関する教育を充実する。
- ・外国語教育に関して、小・中・高等学校一貫した学びを重視する。

[重要事項]

- ・初等中等教育の一貫した学びの充実を図る。
- ・コンピュータ等を活用した学習活動を充実し、情報活用能力やプログラミング的思考の育成を図る。



ポイント

たくましさ、一貫した学び、深い学び、外国語教育、プログラミング的思考

義務教育学校のよさ

□児童生徒理解の深まり

- ・中学校（7年生以上）でも、自分のことを知っている教員がいる。（安心）
- ・中1で途切れることなく、連続してよさを発揮していくことができる。
- ・継続した生徒指導、生活ルールにより、九年間安心して学ぶことができる。
- ・中学校が2校になることにより、活躍の場が広がる。
- ・多くの教員（多様な視点）で、1人の子どもを見ることができる。
- ・学校を中心とした地域コミュニティが広がる。（南地区）

□授業改善の広がり

- ・発達段階に応じ、徐々に教科担任制を導入し、専門性の高い授業ができる。
- ・小6から中学校英語をスタートするなど、教育課程を工夫できる。
- ・9年間の連続したカリキュラムにより、効率的な学習ができる。
- ・平和学習など、特色ある教育を九年間一貫して行うことができる。
- ・指導体制の強化が図られる。（教員定数の充実、中学校間の異動が可能）



【北方学園構想の教育方針として大切にすべきこと】

北方学園の教育方針(案)

義務教育学校における9年間の一貫教育

【基本理念】

深い学び

安心・安全

誇り・自信

学習意欲の向上

- 教科担任制の拡充
 - ・専門性の高い授業の実施
- 9年間を見通した指導計画
 - ・先取りと学び直しの位置づけ
- ICTの活用
 - ・興味・関心を高める教材提示

主体的な姿勢

落ち着いた生活

- 継続的な生徒指導
 - ・安心して学び合える集団づくり
- 異学年交流
 - ・豊かな心の育成
- 家庭や地域との連携
 - ・コミュニティ学園の推進

共に生きる姿勢

特色ある教育

- 英語教育の充実
 - ・コミュニケーション能力の向上
- 平和・ふるさと学習の推進
 - ・9年間の系統的な学習
- 学校間の交流
 - ・みがき合い高まる関係づくり

やり抜く姿勢

9年間を通して、「たくましい北方の子」を育む

深い学び

学習内容を深く理解し、自分の考えを表現できるようにする

□魅力ある授業を行い、学習意欲の向上を図る。

・教科担任制の拡充

5年生から図工や音楽などを中心に、徐々に教科担任制を導入し、子どもたちの学習意欲の向上を図る。その際、教員の配置によって、毎年実施教科が変わることがないように、計画的、安定的に指導体制を整える。

・9年間を見通した指導計画

先取りや学び直しを位置づけ、確実に学習内容を身に付けられるようにする。また、学習内容の系統性を踏まえた指導により、関心を高め、理解が深まるようにする。

・I C Tの活用

興味・関心を高め、理解を深める教材提示をするとともに、I C Tの活用により、プログラミング的思考、情報活用能力を育成する。また、タブレット等の活用により、個に応じた指導の充実を図る。

安心・安全

落ち着いた学習環境を築き、安心して学び合えるようにする

□落ち着いた学校生活を送れるようにする。

・継続的な生徒指導

一人ひとりの児童生徒の様子について、9年間を通して切れ目なく理解を深め、個のよさを伸ばすことによって、互いに認め合い安心して学び合える集団づくりをする。また、生活のきまりなどについて、9年間を通して整合性を図ることによって、安心して生活ができるようにする。

・異学年交流

中学校時期の生徒が、低学年の児童と触れ合うことで、心の安定や思いやりの心が育つことが期待できる。義務教育学校になることで、様々な形態の異学年交流が可能となる。各発達段階に応じて豊かな心の育つ交流活動を計画的に設定する。

・家庭や地域との連携

現在進めているコミュニティ学園の取組を推進し、地域、家庭、学園が共通の目標を持つとともに、それぞれの役割を果たし、学園運営に参加することで、安心・安全な教育環境づくりを推進する。

誇り・自信

自信をもって、一人ひとりのよさを伸ばせるようにする

□ 2校共通して北方町の特色ある教育を推進する。

・ 英語教育の充実

英語教育の充実を特色ある教育の1つに掲げ、主体的に英語力検定に挑戦する姿勢を育て、自信がもてるようにする。また、小学校段階からの先取り学習や外部人材の活用等により、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

・ 平和・ふるさと学習の推進

現在、北方町で進めている平和学習について、9年間の系統的なカリキュラムを作成し充実を図る。また、地域行事に積極的に参加している児童生徒のよさを生かし、地域を担う資質を育てる、ふるさと学習を計画的に設定する。

・ 学校間の交流

町内で義務教育学校2校になるよさを生かして、高め合ったり、協力し合ったりする関係を築いていく。そのために、共同活動、発表会や競技大会などの設定を工夫する。